

事業評価シート（平成27年度分）

1. 事業の位置付け

事務事業名	青少年国際交流事業		
事業担当	健康・こども部 青少年課		
事業種類	○ハード ●ソフト		
総合計画の位置付け	'01	基本目標1 豊かな心をはぐくみ、よろこびとふれあいにあふれたまち	
	'03	③〈交流〉 ひと・文化の活発な交流が広がる環境をつくる	
	'02	2 地域の文化をお互いに理解し、活発な交流を進める	
根拠法令等			
対象・受益者	市内在住の中学生、高校生	事業期間	
委託・協働	【委託： 3セク・財団 企業 NPO ○その他】【協働： 国際交流協会、派遣団OB・OG】		
	目的・目標	事業の概要	
姉妹都市と本市の青少年が相互理解を深め、両市の青少年及び参加青少年同士が活発な交流活動を展開しています。		青少年育成及び青少年活動の促進のため、姉妹都市ローレンス市との青少年交流の機会を提供し、両市における相互理解と国際親善を推進します。	

2. 事業の検証

活動指標①	指標名	交流会開催回数			単位	回
	説明・算定式	派遣団修了者で構成される青少年団体が、自発的に企画・実行又は参加したイベント等の回数				
		平成25年度	平成26年度	平成27年度		
	実績	4	4	4		
活動指標②	指標名				単位	
	説明・算定式					
		平成25年度	平成26年度	平成27年度		
	実績					
成果指標①	指標名	青少年団体加入率			単位	%
	説明・算定式	派遣団修了者で構成される青少年団体へ加入した派遣青少年の割合				
		平成25年度	平成26年度	平成27年度		
	実績	100	100	100		
成果指標②	指標名				単位	
	説明・算定式					
		平成25年度	平成26年度	平成27年度		
	実績					
進捗状況	①：予定どおり					
	遅れている理由					
平成27年度の主な取組と成果						
ローレンス市青少年訪問団を平塚に迎え、滞在中は市民・青少年団体・小中学校との活発な交流を展開しました。一方、一般公募から選考した本市青少年をローレンス市へ派遣して海外見聞を広めるとともに、ローレンスとの友好親善を深めました。この相互交流が、ともに25回を数えることになり、相互の友好親善が一層深まりました。						
平成27年度の検証結果	A：成果があがった					

項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価	
事業分析	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 市民ニーズ <input type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	派遣については毎年募集人数を上回る応募があり、外国青少年の受入れについても、市民及び市民団体、学校等から積極的な交流要望があるほか、姉妹都市提携の面からも市の関与が不可欠であり、必要性があります。	● 高 ○ 低
	有効性	<input type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input checked="" type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input checked="" type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	事業継続による派遣団修了者の増加や、受入れ時における各種交流機会の提供は、青少年指導者層の拡大や青少年活動の活性化に効果があり、青少年健全育成を実現する方法として有効です。	● 高 ○ 低
	妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input type="checkbox"/> その他	近年では気軽に海外旅行ができ、また民間の企画でホームステイも体験できますが、本事業では実施後も青少年相互交流が図られ、青少年指導者育成も実現されていることから、市が実施する妥当性があります。	● 高 ○ 中 ○ 低
	効率性	<input type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input checked="" type="checkbox"/> その他	派遣については、他事業に比べ一人当たりの育成にかかるコストパフォーマンスが高く、また、参加者全員が派遣後の青少年交流や活動に必ずしも携わりきれていないなどの課題があります。	○ 高 ● 中 ○ 低
今後に向けた課題の分析 青少年海外派遣は、次代に指導的役割が果たせる青少年の育成や青少年活動の活発化を目的としているものですが、基本的に次年度以降のローレンス市青少年受入に積極的に関わってもらうことを前提としており、それを定着させていく必要があります。その定着により相互交流の意義が一層高められます。				

3. 年度別事業内容・決算額

(単位:千円)

		平成25年度 決算額	平成26年度 決算額	平成27年度 決算額
事業内容		交流会の開催	交流会の開催	交流会の開催
財源内訳	国庫支出金	0	0	0
	県支出金	266	350	350
	起債	0	0	0
	その他 特財	2,080	2,080	2,080
	一般財源	4,000	3,777	3,960
事業費 (A)		6,346	6,207	6,390
執行率 (%)		97.12	95.00	97.80

4. 今後の事業展開(担当課としての提案)

平成29年度の取組方針 派遣団員の青少年活動への積極的な参画を図るため、参加者には事業の主旨を十分理解してもらうとともに、次年度以降の受入事業での積極的な参画についても取り組めます。派遣団員数や負担金についても、社会情勢等を勘案し、都度実情に見合う見直しを検討していきます。
課長コメント 国際交流事業は、受入と派遣事業をセットで実施することで、次代を担う本市青少年の資質向上や健全育成などその効果が期待されます。これまでの四半世紀にわたって培ってきた青少年の友好親善の輪を応募者・参加者の拡大を図りながら継続していきたいと考えております。